

今週の T2 経済レポート



2020年3月20日号

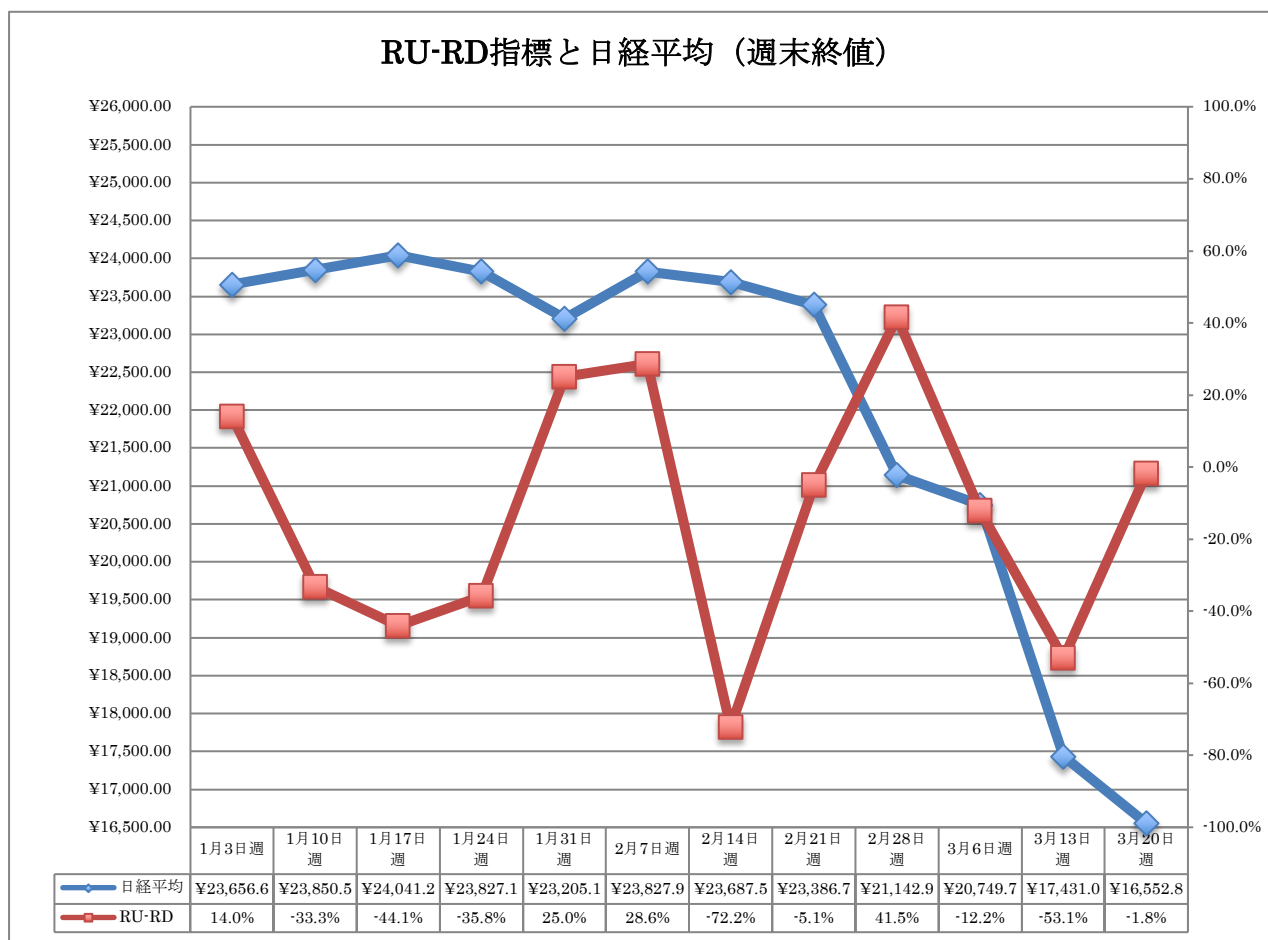
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は軟調な相場が継続する週となりそうです。今週(3/16~3/20)の相場を占う『RU-RD指標』は3月6日週が-1.8%と3週連続でマイナス圏に陥っていることから軟調な相場が継続しそうです。3週連続マイナス圏は昨年12月23日週~1月6日週の3週連続マイナス圏以来。さらに、来週(3/23~3/27)の相場を占う3月13日週が-18.6%と4週連続でマイナス圏に陥っていることから軟調な相場がさらに継続しそうです。4週連続マイナス圏は昨年4月22日週~5月13日週の4週連続マイナス圏以来。以前から『昨年9月以降の上昇局面で発生した2019年11月11日週~25日週、12月23日週~1月6日週の2度の「3週連続マイナス圏」での急落調整局面は何らかの株価操作が行われたことで、その反動は今後大きくなると予想されます。それ以前に3週連続以上マイナス圏が継続したのは、昨年4月22日週~5月13日週の4週連続マイナス圏以来でしたが、当時、日経平均は4月26日週22362円→6月7日週20289円まで2000円幅の下落が起きているためです。』と指摘し、この指摘を証明するかのようにここ5週間の下げ幅は-6396円に膨らみました。また、『多くの市場関係者が今回の急落の原因と指摘している新型コロナウイルスの感染拡大懸念はきっかけに過ぎず、株価操作で溜まっていた急落調整のエネルギーが表面化したに過ぎません。いつも指摘するように、後追い解説は投資に役には立たないことを今回も証明しました。』とも指摘しました。今回の急落を予測できなかった多くの市場関係者はこれからの見通しも予測できる訳がなく、まして「急落の原因を新型コロナウイルスの感染拡大懸念」と考えている間は無理ではないでしょうか。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」「銘柄比率』は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%→3月13日週-91.4%と推移し、7週連続マイナス圏、かつ19年8月12日週以来となる下限ゾーンの-40%超に3週連続で陥っています。同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来の極めて低い水準ですが、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めての極めて稀な水準で、そのことこそが目先、下落局面が最終段階に

入ったことを示唆しています。

今週は、経済指標では、国内は、16日に1月機械受注、18日に2月訪日外客数、公示地価の公表(国土交通省)、19日に2月消費者物価指数、海外は、16日に中国2月工業生産、中国2月小売売上高、17日に米2月小売売上高、18日に米2月住宅着工件数、などの発表が予定されています。17日発表の2月小売売上高は、前月比+0.2%と予想されており、1月実績の+0.3%をやや下回る可能性があります。新型コロナウイルスが影響して市場予想を下回るかが注目されます。このほかのイベント・トピックスとしては、国内では、18日に日銀金融政策決定会合(19日まで)、19日に黒田日銀総裁会見、20日は春分の日で東京市場休場、一方、海外は、16日に先進7カ国(G7)首脳は新型ウイルスに関し協調措置を協議するためのビデオ会議、17日にFOMC(18日まで)、18日にパウエルFRB議長会見、が注目されます。米連邦準備制度理事会(FRB)は17-18日に開催するFOMC会合で、政策金利(FFレートの誘導目標水準)は引き下げの公算ですが、市場は現行の政策金利1%-1.25%から125ベースの利下げでゼロ金利とすると同時に、量的緩和などのバズーカを求めています。」とコメントしました。



2月28日週	3月6日週	3月13日週	3月20日週
¥21,142.96	¥20,749.75	¥17,431.05	¥16,552.83
41.5%	-12.2%	-53.1%	-1.8%

先週の日経平均は、高値 17785 円(3月16日)・安値 16358 円(3月19日)と推移、4週連続で前半高・後半安の弱いかたち。先週は、米連邦準備制度理事会(FRB)は米国時間 15 日の日曜日、2015 年 12 月に解除して以来 4 年 3 カ月ぶりとなる事実上のゼロ金利政策に踏み切ることを決定、同時に、量的緩和を再開することを発表した。逆に投資家の恐怖感に繋がりサーキットブレーカーが発動され NY ダウが 1987 年 10 月 19 日のブラックマンデー(22.61%安)以来となる 12.93%の急落、日本銀行も 16 日に金融政策決定会合を前倒して ETF(上場投資信託)買入額倍増などを決めたが、想定内だった対策への失望感などから下値目標値を下回り、週間ベースで-879 円安と 6 週連続安の大波乱相場で、6 週間の下げ幅は-7275 円に膨らんで 3 年 4 カ月ぶりとなる 16000 円台に下落して終了しています。(先週予告していた上値メド 18939 円~19317 円(+2%かい離)//下値メド 17572 円~17220 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、17 日に 17000 円大台替えで仕切り直しが入りました。17500 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、16000 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、16 日までに 16000 円大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが時間切れ。18000 円大台替えで仕切り直しが入り、16000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、2 月に 22000 円大台割れで下落スタート、同時に 21000 円大台割れでカウントダウンの下落局面入り、3 月に 20000 円大台割れでカウントダウン継続、同時に、19000 円大台割れでカウントダウン継続、18000 円大台割れでカウントダウン継続、さらに 17000 円大台割れでカウントダウン継続、従って、3 月中に 16000 円大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、18000 円大台替えで仕切り直しが入ります。これで短期↑、中期→、長期↓となり、乱高下しやすいかたちですが、3 月で下落が終了するかたちになりつつあります。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 21768 ドル(3月16日)・安値 18917 ドル(3月18日)と推移、5 週連続で前半高・後半安の弱いかたち。先週は、米国政府による大規模経済対策への期待や欧州各国が大規模な財政出動を検討しているとの観測が広がる一方、欧米諸国で新型コロナウイルスの感染が拡大、ニューヨーク州知事が企業に在宅勤務を命令したことを警戒して下値目標値を下回り、週間ベースでは-4012 ドル安と 2 週連続の大幅安で終値では 20000 ドル大台割れで 2017 年 1 月のトランプ就任時の株価に逆戻りしました(先週予告していた上値メド 24341 ドル~24827 ドル(+2%かい離)//下値メド 21800 ドル~21364 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、19 日に 19500 ドル大台替えで仕切り直しが入り、20 日に 20000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 1 日間、同時に、20500 ドル大台替えでカウントダウン継続に 0 日間

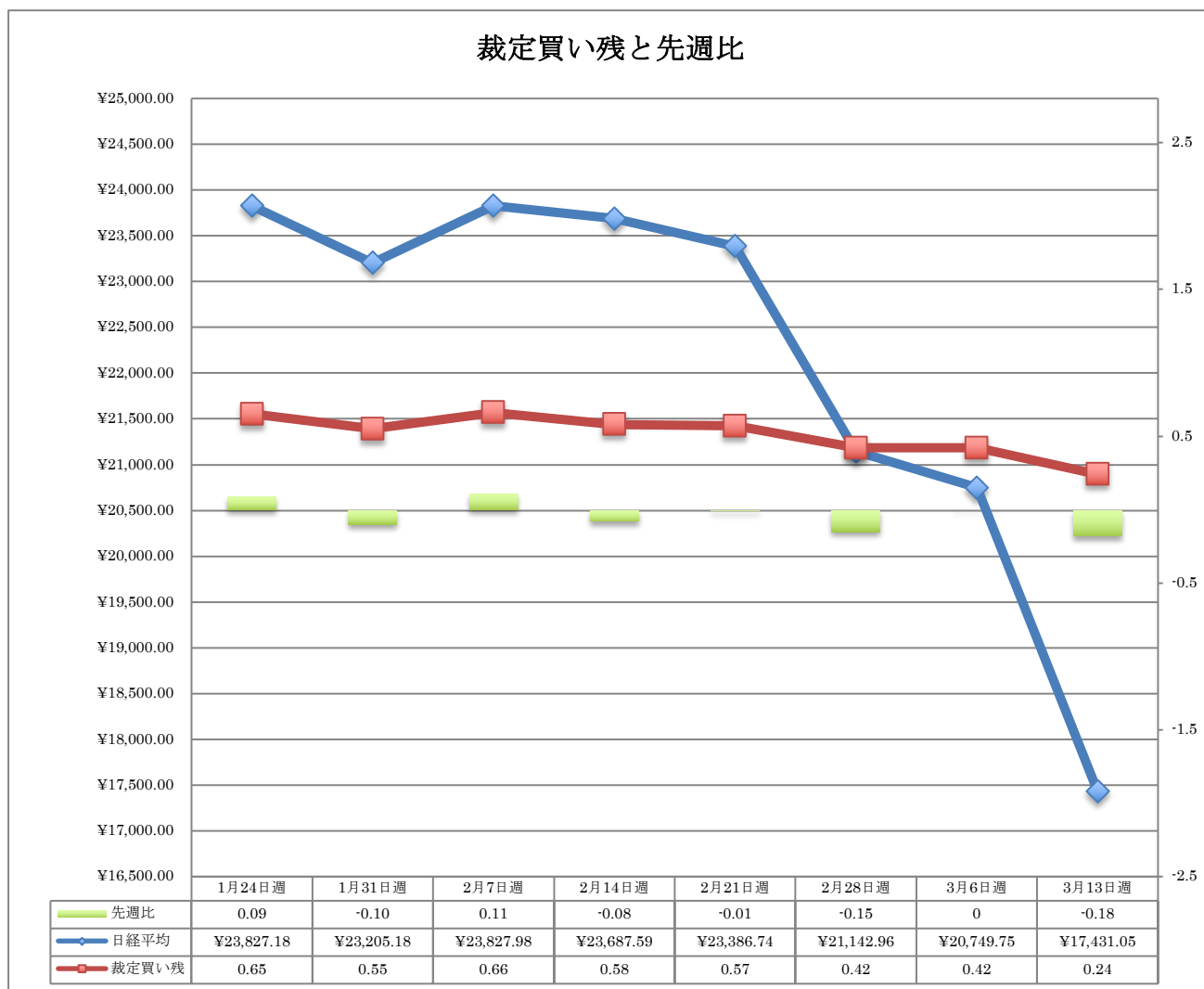
でしたが、逆に、20000ドル大台割れで下落スタート、同時に、19500ドル大台割れでカウントダウンの下落局面入りに0日間、従って、猶予で23日月曜日までに19000ドル大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、20000ドル大台替えて仕切り直しが入ります。中期の方向を示す月ベースでは、3月19日に20000ドル大台替えて仕切り直しが入りました。21000ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、19000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、3月に20000ドル大台替えて仕切り直しが入りました。21000ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、19000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↓、中期↑、長期↑、中・長期が強含みに変化しましたが、逆に目先、弱含みに変化したことで、19000ドル大台を割り込むようですと再度、下落しやすいかたちに変化するため注目です。

一方、為替は、ドル・円が110.94円～105.06円(先週予告していた上値メド105.29円～106.34円(+1%かい離)//下値メド101.87円～100.85円(-1%かい離))と推移、上値目標値を大幅に超え2週連続で円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.1236～1.062(先週予告していた上値メド1.1544～1.1659(+1%かい離)//下値メド1.1245～1.1132(-1%かい離))と推移し、下値目標値を下回り2週連続でドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、119.90円～116.82円(先週予告していた上値メド119.36円～120.55円(+1%かい離)//下値メド116.59円～115.42円(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成し4週間振りに円安・ユーロ高。前の週のドル>円>ユーロからドル>ユーロ>円に変化しましたが、2週連続ドル高が継続したかたちです。市場では円安となったことで株の大暴落に対して楽観視している向きもあるようですが、これは最悪の3点セット「株安・国際商品安・ドル高」が2週連続で起きている状態です。15年11月に出版した拙著『そして偽装経済の崩壊が仕組まれる』でもご紹介した08年の「リーマン・ショック」型と1987年の「ブラックマンデー」型の違いを改めて説明すると、08年の「リーマン・ショック」型は金融市場の信用収縮であり、一方、1987年の「ブラックマンデー」型は「グローバルマネー」がリスク資産から安全資産に移動した、通常のアセットアロケーション。もう少し最悪の3点セット「株安・国際商品安・ドル高」を見極める必要がありますが、仮に最悪の3点セット「株安・国際商品安・ドル高」が継続するようだと、一時的に株価が反発しても近未来に今回の底値を下回るような大きな下落が再度、起こることを意味するため注意が必要です。

<裁定買い残>

前の週は4週間振りに微増でしたが、実質5週連続減少といえる状況で、09年3月以来となる2000億円台と歴史的水準に低迷しています。過去の推移を振り返ると、18年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、18年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000億円台を回復して18年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は

5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。一方、「裁定売り残」は、前の週比 +4350 億円の 1 兆 7503 億円と 3 週連続で増加、昨年 9 月以来となる 1 兆 7000 億円台に急増しており、今回の暴落相場の原動力の一つになっています。



	2月21日週	2月28日週	3月6日週	3月13日週
日経平均	¥23,386.74	¥21,142.96	¥20,749.75	¥17,431.05
裁定買い残	0.57	0.42	0.42	0.24
先週比	-0.01	-0.15	0	-0.18

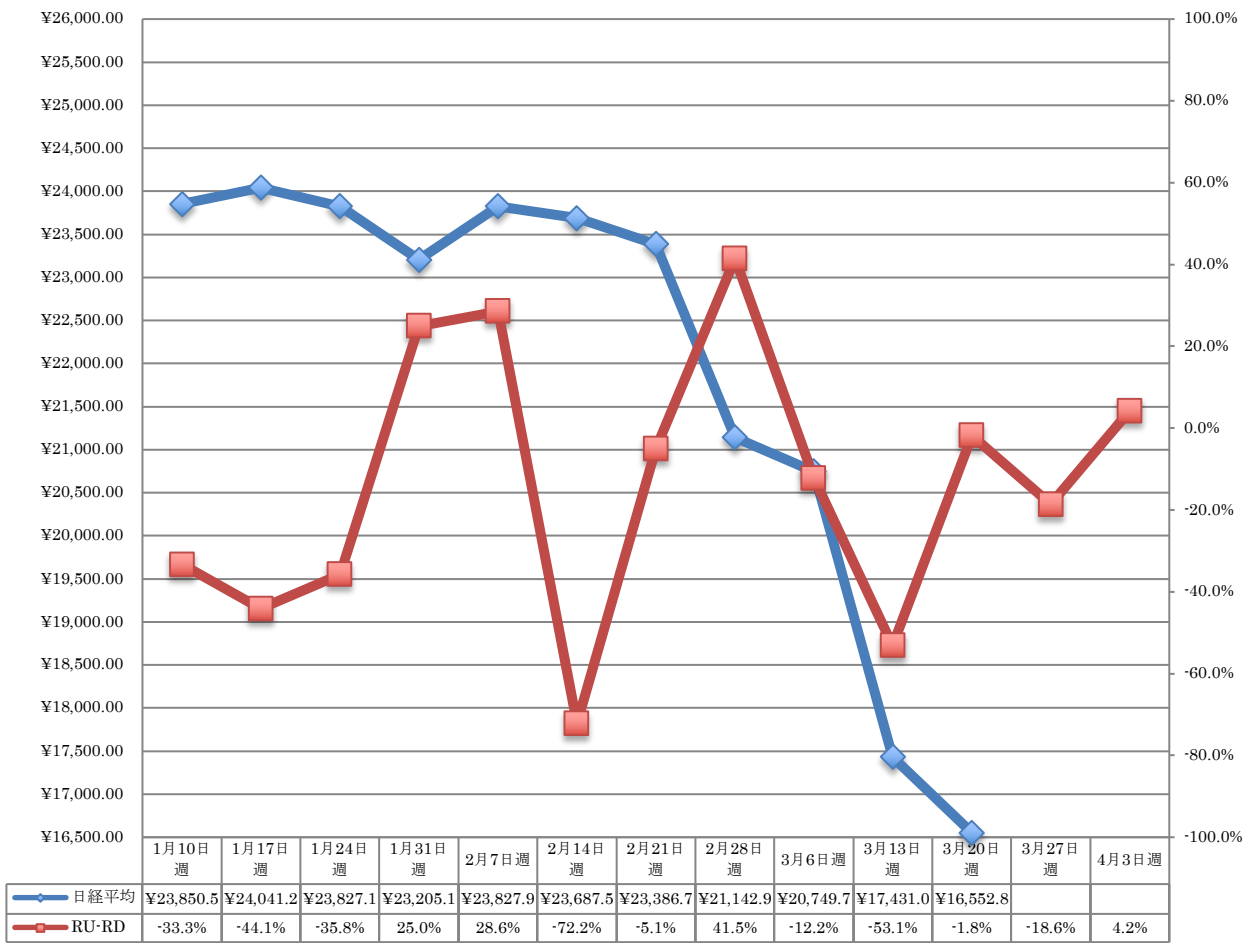
単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は軟調な相場が継続する週となりそうです。今週(3/23~3/27)の相場を占う『RU-RD 指標』は3月13日週が-18.6%と4週連続でマイナス圏に陥っていることから軟調な相場がさらに継続しそうです。4週連続マイナス圏は昨年4月22日週~5月13日週の4週連続マイナス圏以来。以前から『昨年9月以降の上昇局面で発生した2019年11月11日週~25日週、12月23日週~1月6日週の2度の「3週連続マイナス圏」での急落調整局面は何らかの株価操作が行われたことで、その反動は今後大きくなると予想されます。それ以前に3週連続以上マイナス圏が継続したのは、昨年4月22日週~5月13日週の4週連続マイナス圏以来でしたが、当時、日経平均は4月26日週 22362円→6月7日週 20289円まで2000円幅の下落が起きているためです。』と指摘し、この予告を証明するかのようになり、今回、ここ6週間で下げ幅が-7275円に膨らみました。ただ、来週(3/30~4/3)の相場を占う3月20日週が+4.2%と5週間振りにプラス転換したことで急反発が期待できそうです。そろそろ目先底入れの兆しであり、今週は打診買いを入れるタイミングかと思われます。今回の急落を予測できなかった多くの市場関係者はこれからの見通しも予測できる訳がなく、まして「急落の原因を新型コロナウイルスの感染拡大懸念」と考えている間は無理ではないでしょうか。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」「銘柄比率」は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%→3月13日週-91.4%→3月20日週-92.9%と推移し、8週連続マイナス圏、かつ19年8月12日週以来となる下限ゾーンの-40%超に4週連続で陥っています。同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来の極めて低い水準ですが、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めての極めて稀な水準で、2週連続-90%超は更に稀な現象で、そのことこそが目先、下落局面が最終段階に入ったことを示唆しています。

今週は、経済指標では、国内は、24日に2月全国百貨店売上高、26日に2月企業向けサービス価格指数、海外は、23日に米2月シカゴ連銀全米活動指数、25日に米1月FHFA住宅価格指数、26日に米10-12月期GDP確報値、27日に米2月個人所得・個人支出が予定されています。26日発表の米10-12月期国内総生産(GDP)確定値は新型コロナウイルスの感染拡大の影響が全くない時点の経済指標ですが、前期比年率+2.1%程度と予想されています。、このほかのイベント・トピックスとしては、国内では、25日に3月16日開催の日銀金融政策決定会合議事録、27日は3月末権利付き最終売買日、海外は、26日に英国金融政策発表が予定されています。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



3月13日週	3月20日週	3月27日週	4月3日週
¥17,431.05	¥16,552.83		
-53.10%	-1.80%	-18.60%	4.20%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 16953 円～17292 円 (+2%かい離)

下値メモ 14967 円～14667 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 20224 ドル～20628 ドル (+2%かい離)

下値メモ 17994 ドル～17634 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 109.88 円～110.97 円 (+1%かい離)

下値メモ 104.26 円～103.21 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.1189～1.1300 (+1%かい離)

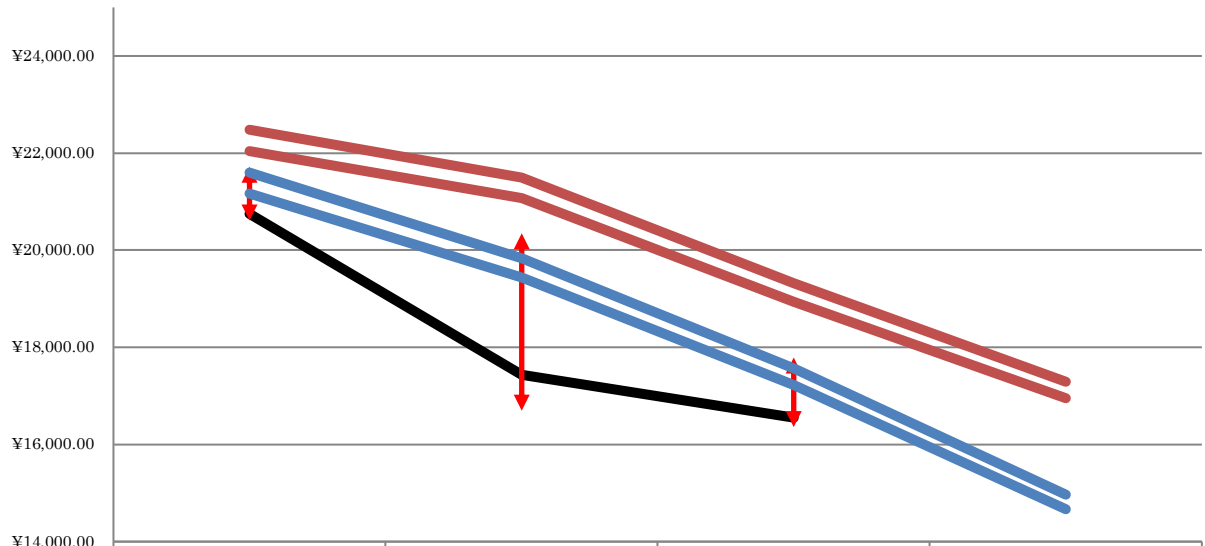
下値メモ 1.0800～1.0692 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メモ 119.50 円～120.69 円 (+1%かい離)

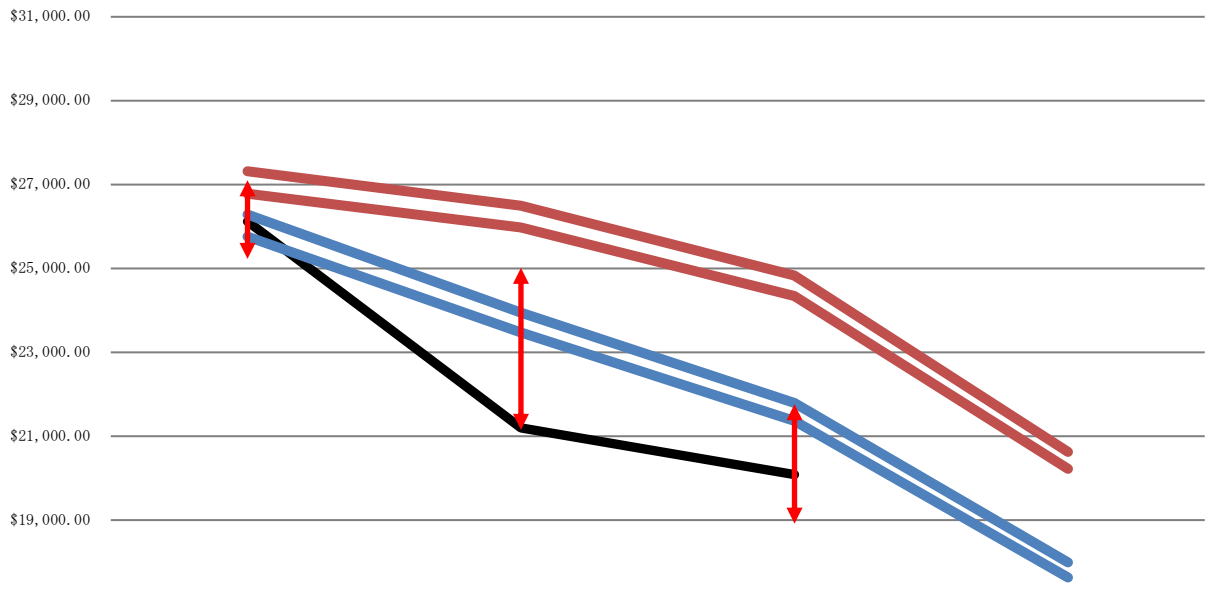
下値メモ 115.82 円～114.66 円 (-1%かい離)

日経平均



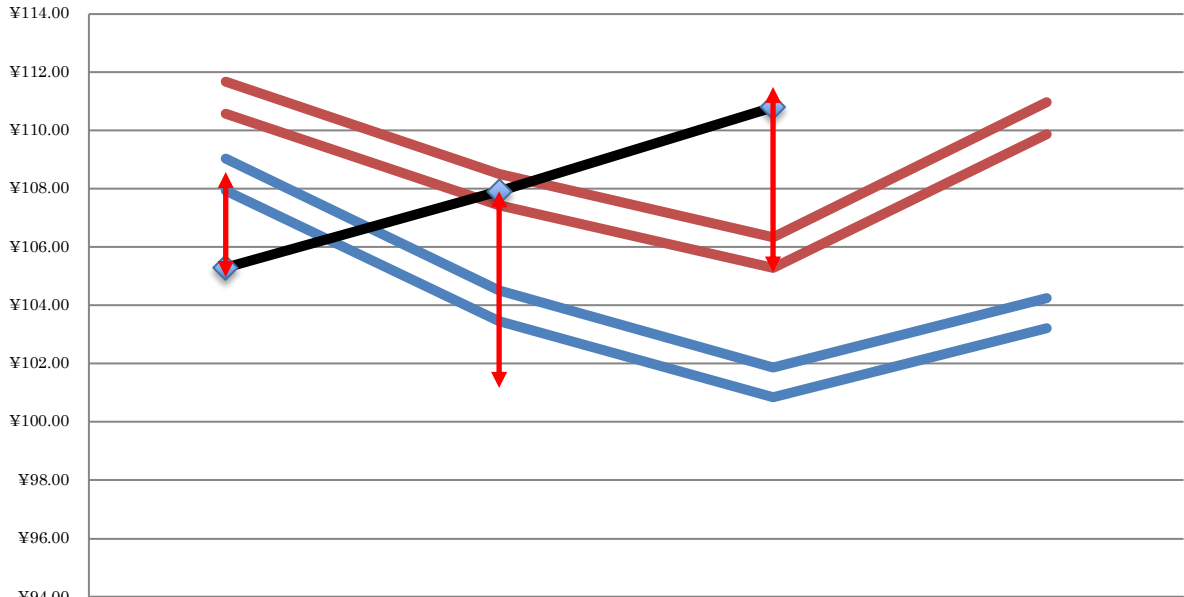
	3月6日週	3月13日週	3月20日週	3月27日週
— 日経平均	¥20,749.75	¥17,431.05	¥16,552.83	
— 高値	¥21,719.78	¥20,347.19	¥17,785.76	
— 安値	¥20,613.91	¥16,690.60	¥16,358.19	
— 上値 上	¥22,481	¥21,498	¥19,317	¥17,292
— 上値 下	¥22,041	¥21,077	¥18,939	¥16,953
— 下値 上	¥21,599	¥19,836	¥17,572	¥14,967
— 下値 下	¥21,167	¥19,439	¥17,220	¥14,667

NYダウ



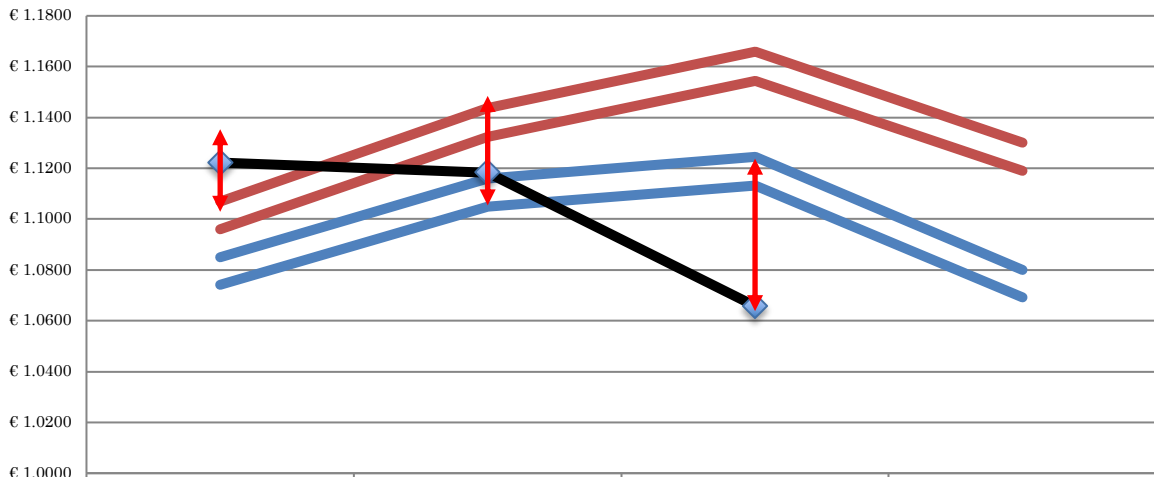
	3月6日週	3月13日週	3月20日週	3月27日週
— NYダウ	\$26,121.28	\$21,200.62	\$20,087.19	
— 上値 上	\$27,318	\$26,500	\$24,827	\$20,628
— 上値 下	\$26,783	\$25,981	\$24,341	\$20,224
— 下値 上	\$26,286	\$23,954	\$21,800	\$17,994
— 下値 下	\$25,760	\$23,474	\$21,364	\$17,634
— 高値	\$27,102.34	\$25,020.99	\$21,768.28	
— 安値	\$25,226.62	\$21,154.46	\$18,917.46	

ドル円



	3月6日週	3月13日週	3月20日週	3月27日週
上値 上	¥111.68	¥108.51	¥106.34	¥110.97
上値 下	¥110.58	¥107.44	¥105.29	¥109.88
下値 上	¥109.04	¥104.51	¥101.87	¥104.26
下値 下	¥107.94	¥103.46	¥100.85	¥103.21
ドル円	¥105.30	¥107.91	¥110.80	
高値	¥108.57	¥107.91	¥111.50	
安値	¥104.98	¥101.17	¥105.13	

ドルユーロ



	3月6日週	3月13日週	3月20日週	3月27日週
上値 上	€ 1.1069	€ 1.1436	€ 1.1659	€ 1.1300
上値 下	€ 1.0960	€ 1.1323	€ 1.1544	€ 1.1189
下値 上	€ 1.0850	€ 1.1160	€ 1.1245	€ 1.0800
下値 下	€ 1.0741	€ 1.1048	€ 1.1132	€ 1.0692
ドルユーロ	€ 1.1223	€ 1.1184	€ 1.0658	
高値	€ 1.1355	€ 1.1485	€ 1.1238	
安値	€ 1.1028	€ 1.1055	€ 1.0638	

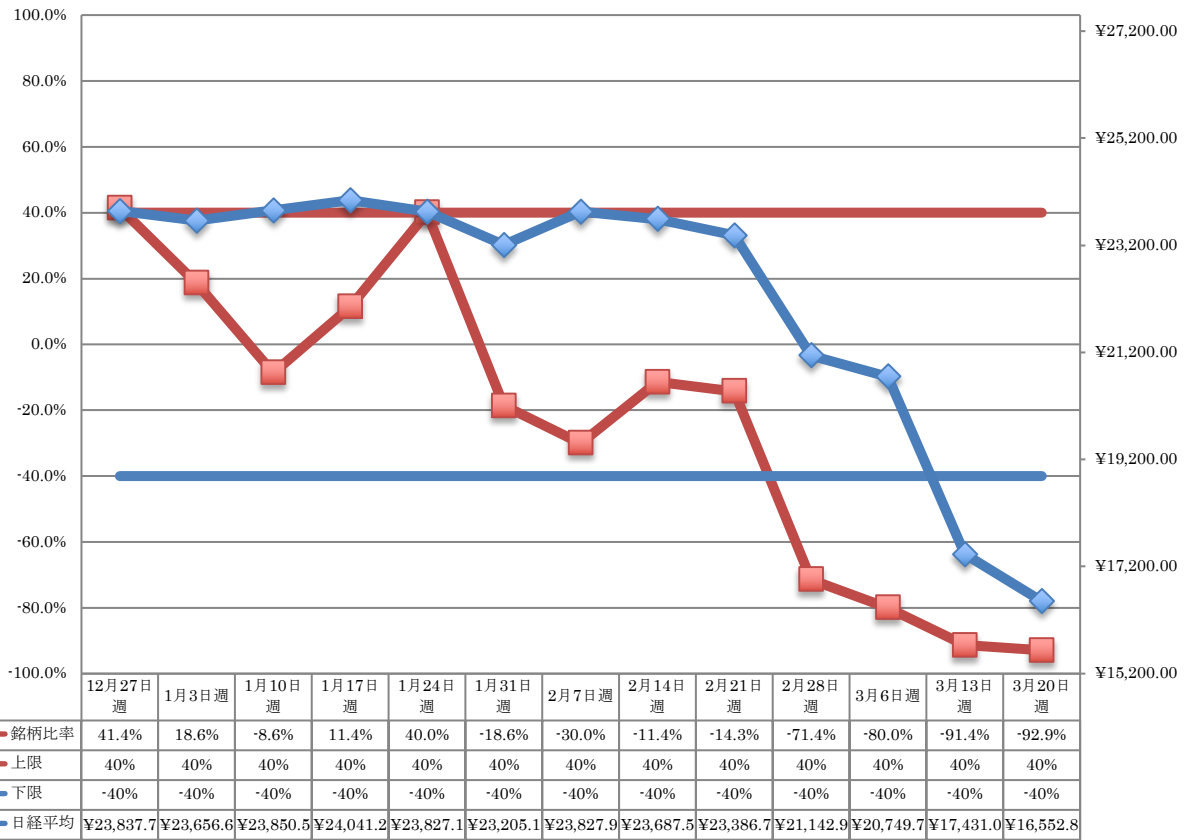
ユーロ円



■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%と推移→3月13日週-91.4%→3月20日週-92.9%と推移し、8週連続マイナス圏、かつ19年8月12日週以来となる下限ゾーンの-40%超に4週連続で陥っています。同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来の極めて低い水準ですが、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めての極めて稀な水準で、2週連続-90%超は更に稀な現象で、そのことこそが目先、下落局面が最終段階に入ったことを示唆しています。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。